

H24 年度第二回講演会レポート

日時：12月1日（土） 講演会13：00～16：45 懇親会17：00～

場所：講演会 国士館大学世田谷キャンパス 柴田会館3F 研修室

懇親会 同キャンパス 梅ヶ丘校舎34号館10F スカ이라ウンジ

参加者数：19名

講演内容

① 招待講演

講演者：白百合女子大学文学部 堀井清之教授

講演題目：流体と文学作品に含まれる“かたち” -渦の不思議をめぐって

講演要旨：周りをよく見ますといろいろな“かたち”が目に入ります。

ヒマワリや朝顔の花、DNA、クジラのらせん運動、指紋、おもちゃのバネ、中華まんじゅうの頭は何故ねじられているのでしょうか、小説にも文体の渦が・・・。

渦研究、特に、螺旋を描きながら収斂性の高い、安定した流れを示すスパイラルフローの工業的利用研究について触れながら、文学作品への流体力学的アプローチで可視化した宮澤賢治作品の波動構造や夏目漱石作品のらせん構造についてもお話をしたいと思います。

② 卒業生による講演

講演者：古河電池 白澤 徹 副社長

講演題目：品質・生産性の向上と人材育成

—古河電工グループの取り組み—

講演要旨：日本経済を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。そんな中で生産の基本である「安全」「品質」「設備の安全」を確保し、生産性の向上、原価低減に全社をあげて取り組んでおります。厳しいときにこそ、しっかりと品質・生産性の改善と人材の育成を行い、次のステップに向け飛躍できるように、古河電工の取り組んでいる内容の一部をご紹介します。

※講演前に講演者よりいただいた講演題目および要旨を転載



NPO 法人 流体エネルギー有効利用研究会 渡辺敬三理事長



白百合女子大学文学部 堀井清之教授



古河電池 白澤 徹 副社長